

肺機能検査

肺機能検査は、息を大きく吸ったり吐いたりして、肺の能力を調べる検査です。肺の働きが順調で十分な換気が行われているかを調べます。



〈測定項目〉

	解説
努力性肺活量 (FVC)	最大限に空気を吸った後、できるだけ一気に吐き出した空気の量
予測肺活量	性別・年齢・身長から計算される標準的な肺活量
%肺活量 (%VC)	予測肺活量に対する肺活量の割合 (%)
1秒量 (FEV1.0)	努力性肺活量で、最初の1秒間に吐き出した空気の量
1秒率 (FEV1.0%)	努力性肺活量に対する1秒量の割合 (%)
%1秒量 (FEV1.0)	性別・年齢・身長から計算される標準の1秒率に対する測定値の割合 (%)

換気機能が低下すると、換気障害が起こります。肺機能検査の結果により、正常、拘束性障害、閉塞性障害、混合性障害に分けられます。

換気区分	解説	疑われるもの
拘束性障害 (%肺活量80%以下)	息を吸うとき肺がよく膨らまず、肺活量が落ちる	肺線維症・肥満など
閉塞性障害 (1秒率70%以下)	気道(気管や気管支)が狭くなると空気が肺に速やかに出入りできないために1秒率の低下が起こる	肺気腫・慢性気管支炎などの慢性閉塞性障害(COPD)
混合性障害 (%肺活量80%以下かつ1秒率70%以下)	拘束性、閉塞性のどちらの障害も起こす	気流閉塞が進行したCOPD